

連載

次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～ ⑯

優れたブドウ農家になるために

私の夢は、優れたブドウ農家になり美味しいブドウを生産することです。

そのため現在栃木県農業大学校の果樹専攻で日々ブドウについて学んでいます。

私の家は、昔から代々農家として稻作を行っていましたが、減反政策や米の価格低下から父が胡蝶蘭の栽培を始めました。しかし私は、家を継ぎ農家になると決心したときに、父の始めた胡蝶蘭を単に継ぐではなく、自分のやりたいことを仕事に出来

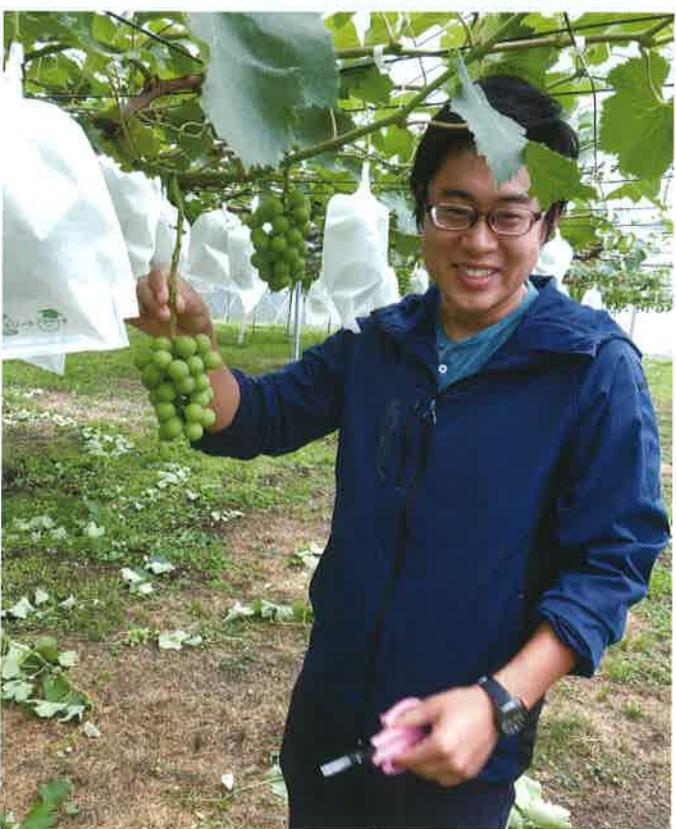
たら魅力的ではないかと考えるようになります。

家が農家という漠然とした理由で農業高校へ進学しましたが、授業の一つにあった

果樹の実習をしていくときに、初めてブドウに触れブドウの面白さを知り、その時に「これを仕事にしたい」「将来はブドウ農家になる」という明確な目標が出来ました。

親とは違う作物を一から始めるのは大変なことですが、優れたブドウ農家になるとこの夢を叶えるために、今後もブドウの知識を高め、立派な経営者になれるよう努力していこうと思います。

(園芸経営学科 果樹専攻 小林祐輝)



祖父との約束、そして花づくりで皆に恩返し



私の夢は、花づくりを通して今まで私に
関わってくださった地域の方や先生、友達、
家族に恩返しすることです。

我が家では、私が生まれる前からシクラ
メンを中心とした鉢物栽培を行っており、
物心がついた頃から花に囲まれて育ちまし
た。私が本格的に花づくりを一生の仕事に

なりました。
「私も将来、花づく
りが生きがいだと心
な、そんな花の生産
者になりたい。」その
約束になりました。

(園芸経営学科 花き専攻 菱沼由希)



しようと決心したのは、私が中
学三年生の時に他界した、花づ
くりが生きがいだった祖父と交
わした約束があつたからです。

私は今でも祖父が最後に話

してくれた言葉を覚えていま
す。話すのも大変な状況で発し
た「花屋よろしくね」という言
葉です。花を愛し、一生をかけ

て築き上げてきた鉢物経営を孫

の私に託す、そんな思いから絞

り出され

た言葉で

した。こ

れは祖父
と私との

業大学校で花き栽培に関する知識や管理技
術を学んでいます。

就農することは簡単なことではあります
が、どんなことがあってもあきらめずに花
づくりを続けていきたいと思います。家族、
応援してくださる方のため、そして何より
祖父との約束を果たすためにも花を作り続
けて恩返しをしていきたいと思います。